

中学生の進路希望の格差・不平等へのアプローチ

——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (1) ——

東京大学

藤原翔

1 目的

現代日本社会において、学歴は様々なライフチャンスに影響を与える重要な要因である。しかしその学歴獲得には、生まれ育った家庭や地域などの環境が関わってくる。このような教育達成における格差・不平等は、社会階層論や教育社会学的研究の古典的なテーマであるものの、その生成メカニズムは理論的にもまた実証的にも十分に検討されているわけではない。このような問題を背景として家族や地域が子どもの様々なアウトカムに対してどのような影響を与えるのかを示し、そしてそのメカニズムを明らかにするために、2015年に「中学生と母親パネル調査」(JLPS-J)を実施した。本研究はその調査の狙いと設計について報告を行うとともに、第1波の調査データの分析から、中学生と母親の教育アスピレーションと教育期待に影響を与える要因を検討するモデルを提示し、分析を行う。

2 方法

調査会社のモニタに登録されている中学3年生とその母親に対して2015年10月～2016年1月にかけて郵送調査を行った。合計4,117ペアに調査票を郵送し、1,859ペアから調査票が回収された。有効回収は1,854ペア(45.0%)となった。回収サンプルの属性についての詳細は藤原(2016)を参照されたい。このデータを用いて、出身背景が中学生と母親の教育アスピレーションと教育期待に与える影響をみるだけでなく、中学生と母親がそれぞれの進路選択肢に対してどのような評価を持っているのかという点から、進路決定のメカニズムにアプローチする。出身背景としては、親の職業、親学歴、世帯収入を用いる。また進路選択肢に対する評価については、それぞれの進路の経済的負担感、下降移動回避の可能性(親の職業的地位以上への到達可能性)、成功の見込み(進学先でうまくやっっていけるかどうか)を用いる。

3 結果

各進路に対する評価が進路希望に与える影響をみる上で条件付きロジット分析を行った結果、中学生の教育アスピレーションと教育期待には下降移動回避の可能性のみが、母親の教育アスピレーションには経済的負担感、下降移動回避の可能性、成功の見込みのすべてが、母親の教育期待については下降移動回避の可能性と成功の見込みの2つが影響を与えていた。性別による交互作用がみられたのは、母親の教育期待と下降移動回避の可能性であり、女子中学生に対する母親の教育期待と下降移動回避の可能性との関連が弱くなる傾向が見られた。また出身背景については親の職業、親学歴、世帯収入の全てが中学生や母親の進路意識に影響を与えていた。

4 結論

以上の結果から、親の地位からの下降移動回避の可能性が、中学生と母親の進路希望の決定において、重要であるといえる。

文献

藤原翔. 2016. 「中学生と母親パネル調査の設計と標本特性」『東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ』95:1-14.

付記 本研究はJSPS 科研費15H05397の助成を受けたものです。